

令和6年度 杉原谷小学校 学校評価シート

学校教育目標

本年度の重点目標

いのちと人権を大切にし ころ豊かにたくましくのびる ふるさと大好き 杉小っ子の育成 ～自分・友だち・学校・ふるさと、みんな大好き杉原谷小学校～	5点 満点	1 いのちの大切さと人権尊重の精神を基盤にした、学校経営の推進 2 当たり前に取り組み丁寧にやりきる学びの継続と「対話的な学び」に主眼を置いた、深い学び・生活に生きる学びにつながる授業の創造 3 人・もの・こととのふれあいを通じ、ふるさとを誇りに思う心や将来の夢を育む「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進 4 学校と家庭・地域が一体となって子どもを育む、安全で安心な学校づくり
----------------------------------------------------------------------------	----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校自己評価（達成状況）【 A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】		学校関係者評価									
観点	項目	取組（上段）と達成（下段）の状況	児童評価	保者評価	教師評価	評価	総合評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策の適正さの評価		
豊かな心の育成	「心の健康教育」の推進	1 担任の先生と連携し、学期に一度の心の健康教育の実施、1学期と2学期にストレスチェックの実施 2 担任・SCと連携して、ストマネ・ストレスチェックを実施できた。			5.0	A	A	・評価アンケートの分析をし、職員への共通理解を図る。・保護者啓発の機会を設ける(授業参観・ほけんだより等)。 ・学んだことを日常で活かせるよう、日々の中で声をかける。 ・取り組みがマンネリ化しないよう、学期途中にあいさつのポイントを伝えたりあいさつ名人認定の取り組みを行ったりする。	【適正さの評価 A】 良く取り組んでいるからこ こ挨拶もできている。		
	「あったかあいさつ運動」の推進	3 あいさつ運動の実施、生活指導と連携したあいさつ活性化の取り組み(あいさつ名人) 4 あいさつ運動やあいさつ名人認定の取り組みを通して、「あったかあいさつ運動」を推進することができた。	4.5	3.8	5.0	A		・ほかほか週間要のテーマに合った本を全児童の目につく職員室前や下駄箱前に置く。 ・ほかほかカードの内容を児童同士で交流する機会をつくる。・朝会だけでなく一斉下校時にも児童会からほかほかカードの発表をすすめる。 ・新教科書になったため、カリキュラムの編成を行う必要がある。・道徳の研究授業を検討する。	地域の人に、元気のよいあ いさつがさらにできるとよ い。		
	人権教育の充実	5 毎月のほかほか週間の取組、人権集会の実施 6 毎月相手や自分のことを考えたり振り返ったりすることができていた。人権集会は各学年の取組を知る良い機会となった。	4.6	4.0	5.0	A					
	道徳教育の充実	7 教科書及びノートや副読本(心シリーズ等)の活用、週1時間授業の確保 8 年間指導計画の見直しをしながら、教科書及びワークシートや副読本を活用し、週1時間を確保した。			4.9	A					
確かな学力の育成	学びの土台作り	9 当たり前に取り組み、最後までやりぬく姿勢の涵養 10 自ら学び、最後までやりぬくことが当たり前、という学びへの姿勢が定着している。	4.5		4.9	A	A	・「当たり前に取り組み、最後までやりぬく姿勢」という学びの姿勢、学習規律の徹底を今後も継続して鍛えていく。 ・これまでの積み上げがあり、最後までやり抜く姿が多く見られる。今後も全職員で意思統一し、組織的に取り組んでいく。 ・授業づくりのポイントを意識し、対話やめあてからの振り返りがきちんとできた。見直しをもたせた授業づくりを今後も行っていく。 ・教師間の授業相互見学を今後も行い、学級経営や授業技術、思いを交わらせることで、教師としての力量を高める。 ・来年度も、年度初めに教師のベクトルあわせの研修を行い、読解力トレーニングの質を向上させていく。学年間の交流も行う。 ・効果的で取り組みやすい資料がいつでも使えるように、確認したりストックしたりしておく。 ・学期に2回、年間6回のチャレンジ家庭学習を継続して実施し、「学習時間・ていねい・見直し」の達成状況で100%を目指す。 ・自主学習の内容の幅が広がっている。ノート展覧会やクラスでの交流を通して、さらに学年に応じた効果的な取組を目指していく。 ・教師、児童の読み聞かせ、ボランティアさんの活動などを通して1年間取り組んできたことを今後も進める。 ・多可町図書館の貸し出し、学級文庫、図書時間の活用等を通して、さらに充実させる。	【適正さの評価 A】 学校ではよく取組をされて いる。ゲームやYoutubeの 時間が長い。大人も本を読 まない時代である。 各家庭で、一緒に本を読む など、保護者の努力も必要 である。長い目で見守るこ とが大切。		
	深い学びにつながる授業づくり	11 「杉小授業モデル2024」の共通理解と実践 12 4月の研修で授業モデルの共通理解を図り、全学年で取組を進めることができた。	4.0		4.8	A					
	課題克服に向けた朝学の充実	13 読解力向上に向けた、速読解トレーニングの実施、点検 14 週に2回読解力トレーニングを行った。4月に研修をして、教師のベクトルあわせができた。			5.0	A					
	家庭学習習慣の確立	15 チャレンジ家庭学習強化週間(学期に2回)の実施 16 2学期までの達成状況は、学習時間97%、ていねい98%、見直し98%である。	4.5	3.4	5.0	A					
健やかな体の育成	読書活動の充実	17 図書室の活用・職員の見聞かせ・図書ボランティアさんのお話し会・団体図書貸し出し・図書室環境整備 18 計画通り、実施できた。	3.6	2.2	5.0	A					
	体力づくりに向けた取組	19 体育ノートの活用と体育の時間の杉小サーキットの実施 20 体育ノートを活用して体力づくりに取り組むことができた。	4.1	4.1	4.5	B	B	・今後も体育ノートの活用を啓発する。 ・体力アップサポーター派遣事業をこれからも活用し、専門性の高い指導の機会を確保する。 ・体力テストの結果を分析し、来年度への指導に活かす。教職員で共通理解を図る。 ・保健給食委員会が主体的に活動(発表・呼びかけ・掲示)できた。引き続き児童同士の横のつながりから、健康意識が高まるよう工夫していく。 ・「立ち止まって見なくなる掲示物」「読みたくなるほけんだより」についても引き続き作成していく。 ・発達段階に応じた食育を、外部の講師の力もお借りして充実させていく。 ・給食センターと連携し、体験活動(皮むき体験等)の取組を増やしていく。	【適正さの評価 B】 子どもたちは体力アップサ ポーターのことを楽しみに しているようである。良く 取り組んでおられる。泳力 など体力向上に向けて取り 組んでいたいただきたい。		
	芝生の特性を活かした授業づくり	21 体力アップサポーターの招聘、体力テストの結果を受けた授業改善の取り組み 22 体力アップサポーター事業を活用することができた。			4.3	B					
	健康情報センターとしての役割	23 「今」必要な健康情報を発信する委員会児童と一緒に、興味を持てる掲示を作成する 24 委員会活動・ほけんだより・掲示板を通して、必要な情報を発信し、児童の健康意識が高まった。		4.4	5.0	A					
自己改善に繋がる食育の推進	25 「食に関する指導計画」に基づき、外部講師や機関と連携した系統だった指導の実施 26 給食センター栄養教諭にお世話になり、食に興味を持てる指導が実施できた。			4.9	B						
生活指導の充実	いじめの未然防止と早期発見・早期対応	27 学校生活相談シートやストレスチェックによる実態把握。校務支援ソフトによる情報共有。 28 定期的な実態把握と校務支援ソフトを用いて効率的に情報共有ができた。	4.8	4.3	4.8	B	A	・担任だけでなく、多くの先生方が関わって今の活動ができている。今後も担任だけでなく杉小職員みんなでも取り組む意識をもつ。 ・ピーター・たつき機は、年度初めに誰がどの時間行けるのか担当を決める必要がある。 ・4年生は福祉体験を中心に学習することが、毎年伝統となっているので、この伝統を今後も受け継いでいきたい。 ・各学年のテーマと年間の見直し、更には次学年へのつながりを意識した取組を継続する。現状に合わせてカリキュラムの見直しも行う。 ・ふるさと検定は、自分たちの住んでいる地域の歴史や自然等について知るよい機会になっている。今後も継続して取り組んでいく。 ・多可町ふるさと教育カリキュラムをもとに、学年に応じたふるさと教育を推進していく。 ・各行事の前後、学期始め・終わり等、機会を捉えて児童自身のめあてやふり返りをすると共に、新たな課題を発見し自己実現のための意欲を持つことができるようにする。・児童の自己有用感を高めることを意識した教育活動を推進する。	【適性さの評価 A】 多くの目で見守ってもらえて おり、けんかがあっても、話し 合わせながら上手く仲裁して もらっている。		
	不登校の未然防止と対応	29 全職員で全児童に関わる＝居場所作り。(未然防止)学校・社会との関わりを持たせる。(対応) 30 校内で先生と子どものあいさつが活性化するなど、言葉をかける機会が増えた。						5.0	A		
	生活のめあての充実	31 年間重点目標の設定と啓発活動(児童会、委員会、高学年)年間目標を重点的に意識するあいさつ強化週間の設定 32 重点目標を意識するために、それぞれの学年で取り組みを考えることができた。あいさつ名人認定によりあいさつが活性化した。						5.0	A		
ふるさとを愛し、夢を抱く児童の育成	杉原紙学習の推進	33 杉原紙制作のための工程や歴史についての体験学習および展示物の作成 34 全職員で杉原紙の学習に取り組めた。	4.5	4.2	4.9	A	A	・担任だけでなく、多くの先生方が関わって今の活動ができている。今後も担任だけでなく杉小職員みんなでも取り組む意識をもつ。 ・ピーター・たつき機は、年度初めに誰がどの時間行けるのか担当を決める必要がある。 ・4年生は福祉体験を中心に学習することが、毎年伝統となっているので、この伝統を今後も受け継いでいきたい。 ・各学年のテーマと年間の見直し、更には次学年へのつながりを意識した取組を継続する。現状に合わせてカリキュラムの見直しも行う。 ・ふるさと検定は、自分たちの住んでいる地域の歴史や自然等について知るよい機会になっている。今後も継続して取り組んでいく。 ・多可町ふるさと教育カリキュラムをもとに、学年に応じたふるさと教育を推進していく。 ・各行事の前後、学期始め・終わり等、機会を捉えて児童自身のめあてやふり返りをすると共に、新たな課題を発見し自己実現のための意欲を持つことができるようにする。・児童の自己有用感を高めることを意識した教育活動を推進する。	【適正さの評価 A】 紙漉きに関して、保護者も 参加して良い経験になっ た。また、地域の方にも 参加を募ってお手伝いし てもらって良い。		
	総合的な学習の時間の充実	35 環境教育・福祉教育など地域に根ざした教育の実施 36 多可町社会福祉協議会の方と連携して福祉教育へ取り組んだ。梅花藻やホテルの学習は簡略化して取り組んだ。						5.0	A		
	ふるさとカリキュラムの有効活用	37 全校生と保護者を対象にしたふるさと検定の実施 38 98%の児童がふるさと検定を受けた。全家庭数に配布、約7割の家庭で実施・回収し、検定証を配布した。						5.0	A		
	キャリア教育の推進	39 キャリア教育全体計画に沿った取組とキャリアパスポートの活用 40 全体計画に沿った取り組みを実施し、年間3回のキャリアパスポート記入の時間を有効に使うことができた。			4.6			5.0	B		
防災・安全教育の充実	適切な防災・安全指導	41 校内安全点検・登下校指導・避難訓練の定期的な実施 42 定期的な登下校指導を実施した。児童・教職員が主体的に考えて取り組める訓練を計画・実施した。	4.9	4.2	5.0	A	A	・今後も、児童が主体的に考えて行動する訓練や教師の動きを確認する訓練を繰り返し実施し、災害に備える。	【適正さの評価 A】 予告なしの避難訓練で考え させるのはとても良い。		
	PTA・地域人材との連携	43 PTA活動の推進と見守りボランティアの組織拡充・連携 44 PTA組織の改編。見守りボランティアは少し更新。見守り活動は継続実施できている。			4.9	B		・見守り隊については高齢化が進み、若返りが課題である。 ・ボランティアはお助け隊を募る予定であるが、保護者以外の人を募る場合に連絡方法が課題である。			
特別支援教育の充実	個別の支援・指導計画の適切な実施	45 支援を要する児童の課題・実態把握と適切な個別の支援・指導計画の実施 46 個別の支援計画・指導計画立案に際して複数で相談しながら実施できた。定期的な見直しもできた。			5.0	A	A	・保護者や関係機関と連携して適切なアセスメントをし、課題や必要とする合理的配慮を明確にした指導計画をもとに支援する。 ・来年度も多面的に児童理解をすると共に、複数の教員が連携して個別の支援計画・指導計画の立案・実施・見直しをする。 ・全ての児童が安心して学校生活を送れるように、お互いを認め尊重しあえる集団づくりに取り組む。 ・誰もが学びやすいユニバーサルの視点を活かした学級づくり・授業づくりを進める。	【適正さの評価 A】 特別支援に関してインク ループな感じがありとて も良い。		
	インクルーシブ教育の推進	47 様々な課題を持つ児童に配慮した学級作りや授業作りについての研修を行い、取り組むことができた。			4.9	B					
情報教育の充実	Chromebookの有効活用	48 思考の共有や表現を支援するツール、または思考を深めるツールとしての活用 49 調べ学習や連絡事項、作文を書くツールとしてなど、様々な活用できた。			3.9	C	C	・児童が自由に使えるよう、タイピング、各アプリの特徴やメリットを伝えていく必要がある。 ・小さな研修を飽えず続けることで、教員のスキルアップを目指す。	【適正さの評価 B】 プログラミングの機会を増 やしてほしい。保護者、児 童を対象としたSNS講習会 は効果的であった。		
	情報モラルの育成	50 インターネットの活用における留意点および、向き合い方の確認の強化 51 年度初めに、各学年でインターネット、クロームブックを使う約束の確認ができた。	4.4	2.8	4.3	B		・年度初めの確認に加え、各学期ごとや一定の期間ごとのアンケートや確認の場の設定が必要。 ・保護者と連携し、学校・家庭の両方で共通した指導をしていく必要がある。 ・研修を重ね、教職員の技術・知識の向上が必要である。 ・計画に沿った学習ができるよう指導時期をさらに細かく定め、定期的にプログラミングに触れられるようにする。			
	プログラミング教育の推進	52 ビジュアルプログラミング(scratch・WEDO)を活用したプログラミング的思考の育成 53 各学年でのWEDOの使用、scratchでの思考を行う事ができた。			3.6	C					
信頼される学校づくり	保護者・地域の要望への対応	54 学校便りの返信欄やアンケートによる保護者の要望把握、迅速な対応 55 要望には迅速に対応できている。		4.3	4.9	A	B	・要望等をつかんだあと保護者全体に返すことが不十分である。 ・保護者の意見が少ないことが気になっている。 ・週に2回を心掛けている。 ・ホームページに載せる情報の吟味が必要である。 ・ボランティアに関しては学校内のニーズをつかむことができていない。 ・コーディネーターを任命すること。	【適正さの評価 A】 良い感じの協力体制で取り 組んでいる。学校のニーズ を出していくことでもっと 取り組める。		
	積極的な公開、情報提供	56 ホームページを週に2回更新 学校便りやメールによる情報の確実な提供 57 ホームページを週に約2回更新 学校便りやメールによる情報提供は着実に入っている。		4.0	4.7	A					
	コミュニティ・スクールの設置	58 コミュニティ・スクールの推進と計画的な組織づくり 59 ボランティアに関しては体制づくりが進んでいる。			2.8	C					